

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題で問われていることを正確に読み取ることが苦手である。 ・標準学力調査で身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする正答率が 72.9%で全国正答率 91.1%から課題がある。 ・標準学力調査で経験したことから書くことを見付け、文章を書くことの正答率が 59.1%で全国正答率 69.7%から課題がある。 ・経験したことから書くことを見付け、文章を書くことに課題がある。 ・自分の思いや考えが明確になるように、文章を書くことに課題がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の回数を増やし、文章に慣れさせる。 ・読み取ったことが視覚的に分かるように、色を分けて線を引く。 ・物語文や説明文を読むポイントを提示する。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを図や文を用いて表し、友達に説明する場面を多く設ける。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>① 新出漢字を正しく読み書きでき、文をスムーズに読んだり書いたりできるようにする。また、自分の考えを書き表す方法を身に付けさせる。</p> <p>② スキルタイムを活用し、既習内容を振り返る。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 国語の毎時間の漢字練習を丁寧に行う。家庭学習としても漢字ドリルを用いて、反復練習を行う。小テストでは、クラス平均90点以上を2学期、通して目指す。また、文の書き方の例や、図を用いた説明の方法を提示し、1週間に一回、日記の学習を行う。</p> <p>② プリントやドリルの進捗状況をもとに検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算や単位を正しく覚える必要がある。 ・式から文章問題を作ることに課題がある。 ・問題で問われていることを読み取り、正しく立式することに課題が見られる。 ・自分の考えを、既習内容を使って書くことが苦手である。 ・標準学力調査でひき算の文章問題の正答率が59.1%で全国正答率74.2%から課題がある。 ・標準学力調査で式から文章問題を作ることに正答率が18.2%で全国正答率30.4%から課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で単元に関する学習内容をおさらいし、基礎的な計算や単位を正しく覚える。 ・単元ごとに小テストを実施し、スキルタイムなどを活用して補習を行う。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文に線を引き、情報を視覚的に整理する。 ・単元の終末に式から文章問題を自ら作る活動を行う。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①導入で復習を取り入れ、繰り返し練習を行う。 スキルタイム等で単元ごとの小テストを行う。</p> <p>②視覚的におさらいしたことが分かるように、板書を工夫し、おさらい部分が一目で分かるように整える。また単元ごとに文章問題を作る活動を行う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを活用する機会を多く設ける。1単元の中でも、こまめに習熟具合をみとるようにする。</p> <p>②ワークテストの知識と技能面で正答率8割を目標とする。2学期末までには思考を含めた3観点で正答率8割に到達させる。8割に到達していれば、概ね学習内容が身についたと考えられる。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①導入で復習を取り入れ、繰り返し練習を行う。 スキルタイム等で単元ごとの小テストを行う。</p> <p>②視覚的におさらいしたことが分かるように、板書を工夫し、おさらい部分が一目で分かるように整える。また単元ごとに文章問題を作る活動を行う。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを活用する機会を多く設ける。1単元の中でも、こまめに習熟具合をみとるようにする。</p> <p>②ワークテストの知識と技能面で正答率8割を目標とする。2学期末までには思考を含めた3観点で正答率8割に到達させる。8割に到達していれば、概ね学習内容が身についたと考えられる。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①導入で復習を取り入れ、繰り返し練習を行う。 スキルタイム等で単元ごとの小テストを行う。</p> <p>②視覚的におさらいしたことが分かるように、板書を工夫し、おさらい部分が一目で分かるように整える。また単元ごとに文章問題を作る活動を行う。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを活用する機会を多く設ける。1単元の中でも、こまめに習熟具合をみとるようにする。</p> <p>②ワークテストの知識と技能面で正答率8割を目標とする。2学期末までには思考を含めた3観点で正答率8割に到達させる。8割に到達していれば、概ね学習内容が身についたと考えられる。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・語彙が少なく、物の見方や考え方に偏りがあることが課題である。・生活体験が乏しく、具体的なイメージを持つことに課題が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・見学したり、観察したりするポイントをおさえてから活動する。・実際に体験することができる活動を多く取り入れる。・体験するだけでなく、分かったことやできたことなどをワークシートに記入して書く、伝える活動を増やす。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">① 地域の関係機関と連携して学習計画を立てる。② 視点を具体的に示し、より詳しく見たり聞いたりすることができるようにする。③ 単元ごとのワークシートを用意し、書いたり伝えたりする活動を行う。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">① 地域の関係機関に働きかけ、働いている人の想いや、行われている仕事について、様々な方法でまとめられているか検証する。② 活動に入る前に、言葉の意味を確認し、全員が同じ視点で物事を見られているか検証する。③ ワークシートから分かったことやできたことなど自分の考えを記入できているか検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・音楽づくりのための発想の幅が限定的であり、即興的な表現の技能に差がある。 ・鍵盤ハーモニカ奏において、音階と鍵盤を対応させて演奏することに課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 ・音階や指遣いの指導を継続的に行い、定着を図る。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ち等、即興的に音楽づくりをする活動を増やし、思いついた表現を試せるようにする。 ・指導用DVDや生き物の鳴き声の視聴覚資料を活用し、自由な表現の発想を得られるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①リレー奏で演奏を繰り返し、定着を図りながら個別に器楽表現の聴取をする。</p> <p>②継続的に即興表現の場面を設け、表現の試行錯誤の回数を増やす。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①個別の演奏聴取によって児童の器楽技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切な旋律で演奏できるようにする。</p> <p>②児童の表現の様子を記録し変容を明確にし、指導を検証する。7割以上の児童が簡単な音楽をつくる技能を身に付けられるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①リレー奏で演奏を繰り返し、定着を図りながら個別に器楽表現の聴取をする。</p> <p>②継続的に即興表現の場面を設け、表現の試行錯誤の回数を増やす。</p>	<p><検証方法></p> <p>①個別の演奏聴取によって児童の器楽技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切な旋律で演奏できるようにする。</p> <p>②児童の表現の様子を記録し変容を明確にし、指導を検証する。7割以上の児童が簡単な音楽をつくる技能を身に付けられるようにする。</p>
<p><方策></p> <p>①リレー奏で演奏を繰り返し、定着を図りながら個別に器楽表現の聴取をする。</p> <p>②継続的に即興表現の場面を設け、表現の試行錯誤の回数を増やす。</p>	<p><検証方法></p> <p>①個別の演奏聴取によって児童の器楽技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切な旋律で演奏できるようにする。</p> <p>②児童の表現の様子を記録し変容を明確にし、指導を検証する。7割以上の児童が簡単な音楽をつくる技能を身に付けられるようにする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生は6学年の中で最も図画工作の時数が多い。多様な単元を取り扱うとともに、1年生で取り扱った道具や材料を使いこなせるよう、技能を応用をした授業をしたり、造形遊びをしたり、授業を通して豊かな情操を身に着けるようにする。 ・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解し、つまずきなく楽しく活動できるようにする。 ・お互いの作品の良いところを参考にしたり、以前学習したことを生かしたりすることができているので、さらにその力を高める。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT 機器を活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。 ・活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。</p> <p>② 体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期に基本的な技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。</p> <p>② 児童や作品の観察。全児童がある程度新たな表現方法の面白さなどに気付けるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・「体づくりの運動遊び」では、体をうまく使いこなすことに個人差がある。「表現あそび」では、表現するものを知らないこと。イメージ通りに体を動かすことに課題がある。・活動の意図や、危険な部分に気づきにくい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・運動量を確保し、様々な運動遊びを楽しんで活動できるようにする。・多様な動きに触れる機会を設けたり、様々な動きを実際に見せたりすることで体の使い方を理解する。・「何のために活動するのか」「やってはいけないことは何か」目的意識を持たせ、活動に意欲的に取り組むことができる場面を増やす。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①自分たちの考えを交流できる場を設定する。</p> <p>②事前に活動内容の提示方法の工夫をする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①友達のことを聞いて、自分の動きと組み合わせたり、うまく動くポイントを見つけたりできるようにし、ワークシートで検証する。</p> <p>②活動前に目標を立てたり、自分ができるようにするポイントを確認したりする機会を設け、ワークシートでめあての達成度を検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・人物の気持ちを想像したり、背景にある事象に目を向けたりすることが難しいこと・生活経験が少ないため、考えに偏りがあること	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・「自分だったら」と、状況を把握し、自身に置き換えて考える場の設定をする。・多様な考えを受け入れたり、多面的に物事を考えるための発問をしたりする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① 道徳科に生かす指導方法の工夫（発問の工夫）</p> <p>児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするために、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けるようにする。</p> <p>② 話合いの工夫</p> <p>児童相互の考えを深めるために、話合いの工夫をする。考えを出し合う。まとめる。比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①日常生活の中で似たような題材を見つけて学習に関連させ、自分の考えをもつことができるようにし、ワークシートでの記入内容で検証する。</p> <p>②個々の考えをグループや全体で交流し、多様な考えに触れられるようにする。ワークシートの記入内容で検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	